# （６）特別支援教育研究会（通常学級）

会長　　段松　淑子（西土佐小）
副会長　宮﨑　由紀子（中村小）
事務局　奥宮　智子　（東山小）

**１．研究主題**

「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」

**２．研究経過**

| 実施年月日 | 研究のあらまし | 会場 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 令和２年<br>５月　７日（木） | 四万十市教育研究会組織総会 | 中村南小学校 | 中止 |
| ８月１９日（水） | 夏季研修会<br>「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」<br>～ユニバーサルデザインに基づく授業づくりと合理的配慮～<br>（講師）<br>西部教育事務所　宮上　美智子　指導主事 | 社会福祉センター<br>（２Ｆ大会議室） | ５４名参加 |

**３．夏季研修会**

今年度は、西部教育事務所宮上美智子指導主事を講師にお招きして、前半に「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり～ユニバーサルデザインに基づく授業づくりと合理的配慮～」についての講話をしていただいた。後半は、各自が日頃実践している教材・教具等を持ち寄り、グループ協議にて支援グッズの紹介をし合い、宮上指導主事より効果的な支援方法を教えていただいた。

（１）講話：「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」

①学習指導要領解説（平成 29 年告示）総則編より

学習指導要領解説総則編において、「児童の発達の支援」という項目が新設され、そこには、児童の発達を支える指導の充実として、「学級経営の充実を図るうえで最も重要なことは、学級の児童一人一人の実態を把握すること、すなわち確かな児童理解である」と明記されている。また、特別な配慮を必要とする児童への指導については、「障害のある児童などの困難さに対する指導上の工夫の意図を理解し、個に応じた様々な手立てを検討し、指導に当たっていく必要がある」とも明記されている。宮上指導主事より、すべての児童を対象とした指導の充実と、すべての教員が発達の理解と指導にあたることが必要であると教えていただいた。

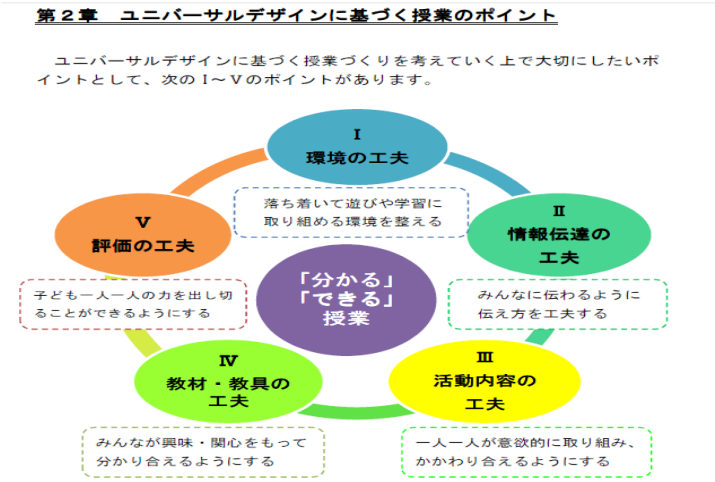
②発達障害の特性理解と対応

現在、通常の学級に在籍する発達障害のある児童をはじめ、様々な困難を抱えている子どもの特性を考慮した指導・支援の充実が求められている。宮上指導主事より、子どもの指導にあたる際は、発達障害の特性理解を踏まえた上で、実態に応じた指導・支援にあたることが重要であると教えていただいた。発達障害とその特性理解については、LD は学習面での困難さ、ADHD は行動面での困難さ、自閉スペクトラム症は社会生活面での困難さなどである。その障害特性を理解した上で、その子どもが何につまずいているのか、苦手なことはどうすればできるようになるのかを考えた子どもの困り感をどうすればよいのかを考え、指導・支援にあたることが重要であると学ぶことができた。講話の中で、子どもの困り感を考えることができる LD 体験を行うことができた。困難さの理解から、そのためにはどうすればよいのか体験し、考えることができた。支援のポイントとして教えていただいたのは、音

読がうまくできないことに対しては、読んでいる文章を指でなぞったり、言葉と言葉の間にスラッシュを入れて読みやすく工夫したりする。書くことがうまくできない場合は、問題はノートに貼ったりマスを大きく書いても良いとしたり、学習方法の工夫を見直すことである。しかし、同じ読むことが苦手な子どもに対して、別の子どもに同じ支援をすることではうまくいかない場合もある。つまり、その子どもの実態把握を踏まえた困難を改善する手だてを具体化しながら支援を行っていくことが重要となってくる。子どもの困り感を取り除いていける手だてを探り、その子どもに合う支援を行っていくのである。また、教師は、褒めることを意識し、子どもが頑張っていることを認める姿勢をもち、具体な褒め方をしていくことも重要である。望ましい褒め方の例として、感嘆詞を使う（「おー」「ああ」「いい」）、行動をそのまま２回言う（「うん、書いてる書いてる」）、不安で先が進みにくい子どもへは続けるべきであることを伝える（「そう、その調子」「そのまま続けて」）と、自己肯定感が高まる褒めることの大切さも学ぶことができた。さらに、それぞれの教育的にニーズに対した指導・対応のポイントや、小学校→中学校→高等学校と切れ目のない支援をするためにも、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の重要さも教わることができた。

③ユニバーサルデザインに基づく授業づくりと合理的配慮

高知県教育委員会（2013，2015）は、『すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック』を公表しており、ユニバーサルデザインに基づく授業づくりの視点を５点あげている。Ⅰ環境の工夫、Ⅱ情報伝達の工夫、Ⅲ活動内容の工夫、Ⅳ教材・教具の工夫、Ⅴ評価の工夫である。すべての子どもの過ごしやすさと学びやすさが向上するには、合理的配慮と組み合わせた支援を行う必要がある。子どもそれぞれ学び方が違い、多様な学びに対応できる教材・教具の工夫も必要となってくる。ひらがなやカタカナ、英単語が書けない、読めない子どもには、モールを使って文字を作る作業（写真１）をすることで、多感覚を使いながら覚えることができることも体験を通して考えることができた。




出典：高知県教育委員会(2013)すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック～ユニバーサルデザインに基づく、発達障害の子どもだけでなく、すべての子どもにあると有効な支援～

写真１　モールを使った英単語

④質疑応答

・「書くこと」が苦手な子どもに対しての支援はどうすればよいのか。

→見る力がどれだけあるのかまずは実態把握が必要である。途中まで見て書けるのか、注意集中が途切れて書けないのか見取る。書く時間がかかる場合は、書く量を調整すること、何度も黒板を見て書く場合は、手元に板書のコピーを渡す等の手だてが考えられる。また、ひらがな、カタカタの 50 音が定着しているかも大切なポイントになる。

・読んで理解することが困難な子どもに対しての支援はどうすればよいのか。

→読みに対しては、指でなぞって読む、スラッシュを入れて読ませる。言葉がうまく出せない場合は、語彙数を増やすため言葉のシャワーをたくさん浴びさせる。また、キーワードの提示による、言葉をつなげて書くことができる手だてを行う。それには、教師からやり方を学べるように、教

員と一緒に考えながら一緒に問題を解いていく。さらに、その子の得意なことを見つけ、興味関心のあることから取り組み、伸ばしていく方法もとることができる。

・対人関係の困難さ、衝動性によるトラブル回避に向けて

→「気持ちの温度計」でその子どもの気持ちを探る。コミック会話による SST の方法や、お互いが笑顔になれるにはどうすればよいのか教師が子ども同士の気持ちの橋渡しをしてあげることも有効である。

（２）グループ協議

①支援グッズの紹介

各グループ６～７名の８グループに分かれてそれぞれが持ち寄った支援の紹介を行った。学校全体で取り組んでいることや各学級の実態に合わせた教材を作成して支援をしているグッズを知ることができ、たくさん学ぶことができた。例えば、たし算かひき算か分かりやすくするために、文章と絵を組み合わせた掲示物を教室に掲示し、いつでも見えるようにしておくこと。自分の気持ちをなかなか伝えられない子どもでは、絵を提示して今の気持ちはどれ？と聞くカードを作成している学校もあった。さらに、机の上をすっきりさせ、集中できる環境をつくるために、鉛筆と消しゴム、定規を落とさないようにする滑り止めシートを全員に配布し、定位置に置かせるグッズもあることを知ることができた。各学校によるそれぞれの特別支援教育の視点に立った支援方法を学ぶとても良い機会となった。宮上指導主事より、カラーマスノート、特別支援教育デザイン研究会の教材や資料、漢字博士（部首とつくりの組み合わせで漢字を作る）等の効果的な支援教材を教えていただいた。

②質疑応答

・不登校ぎみの子どもに対して、保護者と学校の思いのズレが生じてしまった場合の対応について。

→無理に参加させず、参加できたことを褒めることが有効。その子どもがしたい活動だけ参加した場合、〇〇だけは参加するのはダメ！と否定的に言わないようにすることが大切である。また、保護者の思いを聞き、労いながら連携した対応を行う。

（３）参加者より

・ユニバーサルデザインと合理的配慮の違いについて、なんとなく言葉を知っているだけだったので、違いが知れて良かった。宮上指導主事より、「できない」ことに対して、困っているのは子どもという言葉がとても心に残り、子どもの困り感を把握して、支援していく大切さを学ぶことができた。

・宮上指導主事より、視覚支援や、ヒントカード、いかりの温度計等、具体的な支援方法を分かりやすく教えていただき、今後にいかせる支援方法をたくさん学ぶことができた。

・各校の色々な実践を知ることができて、とても勉強になった。自分の学級で困っていることが、他校の先生方も同じようなことで悩みを持っていることを相談できる、大変良い機会であった。もう少し時間があれば、もっと支援方法を共有できたので、今後もこのような機会があれば良い。

**４．今年度の成果と課題（〇成果、●課題）**

〇講話では、具体的な事例を挙げていただきながら、実態に即した具体な支援方法を教えていただき、大変学びの多い研修会であった。

〇合理的配慮について学ぶことができ、ユニバーサルデザインに基づく授業づくりと合理的配慮を組み合わせた指導・支援の重要性を学ぶことができた。

〇グループ協議では、各校の工夫されている教材・掲示物を共有することができ、すぐにでも取り入れていきたい支援方法を学ぶことができた。

〇日頃の支援の悩みを共有することができ、アドバイスをいただけることで、実践できる解決策を学ぶことができた。

●グループ協議の時間が足りなかったので、来年度も機会があれば、もう少し時間を長く設定する。

●来年度は、理論と実践の両方を学ぶ機会があれば良い。